

---

# スバルとミソラ ～平和な日常～

Sunset

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

スバルとミソラ ～平和な日常～

### 【Nコード】

N9348L

### 【作者名】

Sunset

### 【あらすじ】

スバルとミソラの日常

## 私の大切な人…（前書き）

スバルとミソラの少し糖分高め？な日常を書いた短編小説集です。

苦手な人は「すぐに」戻って下さい。

または「私、スバルナ派なんだ…」と、言う人も戻って下さい。

今回は

「ミソラの闇について」  
な話です。

少し糖分高め？

私の大切な人…

怖い…

寂しい…

独りぼっち…

一人は嫌だ…一人にさせないで…。もう昔のあの感情を思い出した  
くない……。思い出させないで。

会いたい…！

彼に会いたい……！

お願い………！！

「ミ…ミソラちゃん！こんな所で何してるの？」

後ろを振り向くと彼がいた！

会いたかった！

彼のおかげで今の私はいるんだ…！

初めてのブラザー…

初めての友達………

そして…

初めての初恋……

……ありがとう！

彼のおかげで……私は生きる意味が一つ増えたんだ……。

「ミソラちゃん。風邪引いちゃうよ……」

君はいつも優しいね。

きつと……それが……

私の心を揺さぶったんだよ……

「うえええ

ん！」

私は彼の胸に飛び込み、泣きじゃくった…

彼は最初は戸惑ったが…その後、優しく抱きしめてくれた。

暖かい……

君のおかげだよ…



ありがとう……。

スバル君……。

## シューティング・スター【1】（前書き）

今回の話は

ミソラ視点の長編です。

孤独や絆をテーマにした話です！

## シューティング・スター【1】

人間誰しも失敗を犯す。失敗を積み重ねる事により人は強くたくましく成長していく…。

ヒーローも同じである。相手と闘い、何回か負ける…。それによりヒーローも立派になっていく。

そのヒーローは地球を何度も救っている。

宇宙人からの侵略…

古代文明の悪用…

ノイズのかたまり…

そのヒーローがここまで頑張れた理由…。それは“絆”があつたからだ。そのヒーローは誰よりも絆を大事にしている…。それに答えるかのように絆は彼を何度も救った。

なら、もしその絆が無くなってしまうたらどうなるだろう？

「フンフンフー」

ソプラノトーンの綺麗な声が、美しいメロディと共に夜空に消えていく。

ここはコダマの展望台。町から少し離れたコダマの名所で、ここには使われなくなった機関車や不思議なオブジェなどが置いてある。

綺麗な歌を歌っていた人は“響ミソラ”だった。

「やっぱりここは落ち着くね、ハープ」

『そうね、ミソラ』

彼女にとってここはとても思い出がある場所であった。

初めてブラザーを結んだ場所…

初めて同じ境遇を得た人と会えた場所…

初めてファンのために歌った場所…

初めての……。

思い出したら言い表せない程の色々な事がここであった。

…だから彼女にとってここは、一番落ち着く場所であった。

「あれ？ミソラちゃんだ…！」

聞き慣れた事のある声が後ろから聞こえた。私は声の主が誰だか分かっていたかの様に、後ろに振り向いた。

「スバル君！ どうしたのこんな時間に？」

今は夜の9時を過ぎていた。確かに小学生が外に出歩いている時間ではなかった。例外として、塾から家に帰る子供はいるけれど、大半が親と一緒にだった。

「展望台に來ただけだよ。ミソラちゃんは どうしてここに…？」

「あはは 私は今日は珍しくお休みだったんだ」

というのは嘘で、本当は作曲しにここに来ただけだった。

私達はこの後他愛のない話をしていた

「スバル君はお父さんが帰ってきてても、毎日ここに来て夜空を見上げてるよね？」

「うん…。なんか日課になっちゃったんだ…」

彼のお父さんは宇宙飛行士で、昔FM星人との交流を深める為に“絆”というロケットに乗り宇宙に行っていた。しかし彼のお父さんが乗っていた“絆”は突然事故を起こし、行方不明になってしまった。それ以来から彼は人との関わりを捨てて、絆を作らなくなった。

しかし今の彼は昔と全く違っていた。

人との関わりを大切にしていって、“絆”を否定するものを許さないかった…。

私はそんな彼に救われたのだ…。



## シューティング・スター【2】

「ミソラちゃんはもうしてまた歌手活動を休止したの？」

そう。私はつい最近歌手活動をいったん辞めたのだった…。理由は簡単だ。中学生になる前に普通の子供として卒業したかったからである。私は今の事をスバル君に言った。スバル君はこっちに向き、笑顔で聞いてくれた。

優しいな…スバル君。

私はふと、そう思った。

彼は優しい。友達に怒った所を見たことがない。だから世界を何度も救えたんだ…。

沈黙が続いた。



すると、彼は突然立ち上がった。私は彼の動きにつられるように彼を見た。

「ミソラちゃん！凄いや…！ 空を見て！」

私はうつ伏せになっていた身体を起こし、彼の隣にたち空を見た

「うわっ！…スッゴく綺麗」

夜空を見上げると、流れ星が降ってきた。

それも、無数の流れ星が何度も降り続ける“流星群”だった

「知ってる、ミソラちゃん？ 流星群って危ないように見えるけど、大半が海に落ちていくんだよ…」

「そうなんだ」

さすが宇宙マニアともいふべき知識力だった。

流星群は降り続けた。何分経っても降りやむ事は無かった。雨でも降っているんじゃないかぐらい降り続いていた

「…消えちゃったね。」

何分か経ち、流星群は見えなくなった。私は展望台から街を見た。夜の10時をまわっていたけれど、家には明かりがついていた。どうやら大半の人達が流星群を見ていたらしい。

子供の騒ぎ声が聞こえる。子供が騒ぐと親が叱っていた。私はその光景を見ながらクスクスと笑った

「…………あっ！」

私は大きな声を出してしまった。まるで、先ほどの子供のような大声だった。

隣で静かにしていたスバル君はビックリして、こっちを見た。

「どうしたの……？ミソラちゃん？」

「願い事するのを忘れちゃった……」

“流れ星” と言えば願い事だ。流れ星が消える前に3回願い事を唱えれば願いが叶うという言い伝えがある。

しかし、流れ星はとても早く消えてしまったため、三回も唱える事はまず不可能だった。

でも今のは流れ星といっても流星群。何分も降り続けていた。

つまり急がなくてももしっかり考えて、ゆっくり唱える事はできるのだった。

けっこうショックが大きかったのか、私は少し涙を流してしまった。

もちろん優しい彼がこの状況で何も言わない事はない。彼はアタフタしながら必死に慰めてくれた。

「ミソラちゃん。またチャンスはあるよ！ …ねっ？」

もちろんそんなチャンスなど滅多に無いことは私でも知っている。私は彼が頑張って慰めてくれている事が分かった。

「……うん またいつかあるよね！」

私は彼の嘘にそう、答えた

そのとき、後ろから沢山の足音が聴こえた。私は後ろに振り向いた。そこにはテレビや新聞の取材の人達が大勢いた

「「響ミソラさん！！何故歌手活動を辞めるのですか？」」取材の人達がどんどんこっちに近づいてきた。その人達は朝から私を追っかけていたのだったのだ。

展望台には逃げ場が無かった。“電波変換”をすればいいという状況でもない。…何故かというと、私が“ハープ・ノート”だとはまだ誰にも言っていないからだ。

逃げ場を完璧に塞がれた。もう逃げることはできない。

取材班がどんどん近づいてくる

もうだめだ！

そう思った時、私は隣にスバル君。つまり“ロックマン”がいること思い出した。

取材班に気づかれないように、小声でスバル君に救援を頼んだ。

しかし、スバル君は顔を横にふった。

「あいにくウォーロックがいないんだよ……」

彼は小声でそう言った。

「今日はやけに静かだと思ったらいなかったんだ……」

疑問を解決した爽快感と共に罪悪感が滲み出てきた。

ついに私達は捕まってしまった

取材は長く続いた。

隣にいたスバル君は“ロックマン”だとバレているため、犠牲になっ  
てしまった。

するとスバル君は注意を自分にやり、私に“逃げろ”と合図をした。

私はものすごいスピードで取材の人達を横切った

もちろん響ミソラ目当てできた取材班はすぐに後を追った。

物陰に隠れて私はすぐに電波変換をした。

なんとか逃げ切る事ができた私は、展望台の上のウェーブロードからスバル君を見た。

ゴメンね…スバル君…。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9348/>

---

スバルとミソラ ～平和な日常～

2010年10月8日16時12分発行